

PAX

pet allergy xplorer



アレルギー・
植物・虫・カビの解説



スペクトラム ラボ ジャパン 株式会社

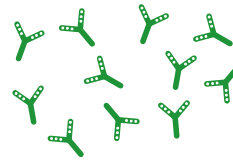
アレルギーについて

★アレルギー反応とは

環境中には、様々な物質が存在します。

その中の通常は害のない物質が**アレルゲン**となり、過剰な免疫反応を引き起こすことで、痒みや炎症を誘発します。

IgE 産生



★アレルゲンとは

アレルギー反応を引き起こす物質のこと。花粉・カビ・ダニ・昆虫・食べ物など、さまざまです。

★増悪因子とは

アレルゲンではありませんが、天候や大気汚染・居住環境・食生活・衛生状態・ストレスなどによって症状を悪化させる要因となるものです。

★アレルギーを調べる検査

●血液検査：血液中のIgEを測定します。

●スキントテスト：皮内にアレルゲンを注入し反応をみます。

PAX は、IgE を測定することでどんなアレルゲンに強く感作しているかを検査しています。

分子アレルギー検査

分子アレルギー検査は、標準的なアレルゲン抽出物の代わりに個々のアレルゲンの分子成分を使用し、患者のIgE感作を診断する、最先端の技術を用いた検査です。

より標準化された抗原を使用

以前の検査

PAX

- ・ Extract- 抽出物
- ・ Component- 分子成分

より正確な計測の実現!

固有のバラつきがあり標準化されていない抗原を使用

- ・ Extract- 抽出物

component
アレルゲン分子成分
アレルゲン物質の中で、
アレルギー反応を引き起こす
分子成分をピックアップ

分子構造模型図

例 Der f 1
cysteine protease

Der f 2
NPC2 family

Der f 15
chitinase

extract
アレルゲン抽出物

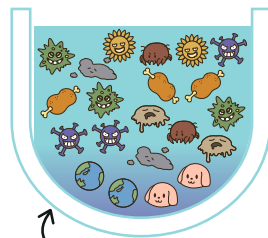
例 コナヒョウヒダニ

アレルギー発症と治療のメカニズム



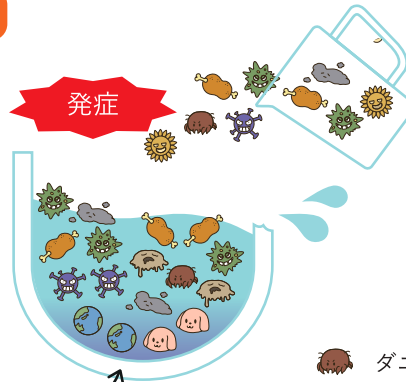
カキ
カキ...

発症前



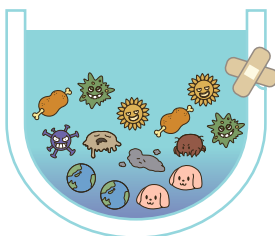
皮膚バリア・免疫バランス

発症

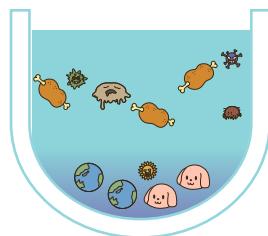


- ダニ
- カビ
- ほこり
- 花粉
- 皮脂
- 食べ物
- 感染
- 気候
- 体質

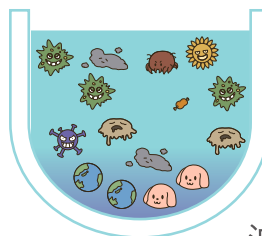
治療 皮膚バリアの改善



治療 環境アレルゲン除去

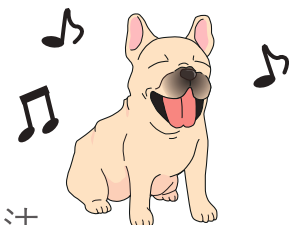


治療 除去食療法



治療

減感作療法



アレルゲンとその対策

花粉 草・樹木一覧 p3～

季節毎に発生するアレルゲンです。

対策：①シャンプーやブラッシングでこまめに花粉を落とす。
②空気清浄機を使用して花粉を室内から除去する。



カビ カビ・真菌一覧 p11

対策：①温度・湿度に注意し、湿度は40-60%以下に保つ。
②本冊子p11「カビ・真菌の生息場所」の表を参考に掃除を行う。
③空気清浄機を使用してカビの胞子を室内から除去する。

フード

肉や植物などもアレルゲンとなります。

アレルゲンを含む可能性のある食物の摂取および接触を避けましょう。

フードデータと検査結果を比較し抽出した推奨フードリストを結果に添付しています。

↑ ペットフード会社様からの情報を基に弊社で作成したフード原材料データベース

※現時点では食物アレルギーを確定診断できる検査は存在しません。

検査結果は、あくまでもフードを選ぶための参考としてご活用ください。



ハウスダストマイト 節足動物一覧 p9

(ハウスダストマイト：コナヒョウヒダニ・ヤケヒョウヒダニ)

ダニは生きている個体だけでなく、死骸もアレルゲンになる可能性があります。

対策：①湿度を低くし、ダニの繁殖力を下げる。
②週に一度、部屋全体を完全に掃除機がけする。(毎日軽く掃除機をかけるより効果的とされています。)
③埃の落下時間を考慮し、掃除機をかける20分ほど前に家具等の埃を払っておく。
④アレルギーを持つペットがいる場合、掃除中は部屋の外に出てもらおう。
⑤ペットの寝床やぬいぐるみ等は熱湯で洗浄後、完全に乾かしてダニを除去する。

節足動物刺咬 節足動物一覧 p9

虫刺症における炎症は、有毒物質の直接的な刺激による反応と、唾液腺物質や有毒物質に対するアレルギーによる反応に分けられます。原因となった節足動物の種類や、個々の体質、吸血・刺咬・接触の頻度によるため皮膚症状には個人差があります。

アナフィラキシーはハチ刺症で問題になりますが、近年問題となっているヒアリも有毒物質の一部にハチ毒と類似した成分を含むので、アナフィラキシーを起こす可能性があります。



アレルギー症状がある動物と無症状の動物を比較した場合、検出されたIgEの数や量と症状に相関性が認められない事もあります。

PAXは「今その動物の体がどのようなものを異物と認識しIgEを産生しているのかを検査し、それに対処する事」を目的としています。

また、アレルギーの発症にはアレルゲンの他に環境因子なども大きく関係していて、何が引き金になっているかなど未だその正確なメカニズムは解明されていません。総合的に対処していく事が大切になりますので、必ず獣医師の判断を仰いでください。




1997年WHO(世界保健機関)において、減感作療法は「アレルギーの自然治癒を促す唯一の治療法」であり「新たなアレルギーの発症を予防する予防的治療法」と位置づけられています。





アレルギーの原因となる草と樹木





名前	1	2	3	4
	アメリカスズメノヒエ	ギョウギシバ	カモガヤ	セイバンモロコシ
写真				
花期	夏	5～7月	7～8月	7～9月
生育場所	南アメリカ原産で、関東以西の道端や農道	道端、荒れ地、土手、浜など	牧草地、土手、道端など	道端、堤防、果樹園など
特徴	草丈 80cm 程度の多年草。葉は線形で基部の縁に毛があり、葉鞘は扁平。花期に二股状に 2～3 本の枝がある穂を出し、3mm 程度の小穂を 2 列に密につける。小花は無毛で、柱頭と葯は黒紫色をしている。	草丈 15～30cm の多年草。葉は 5～10cm の線形で緑色。花期には茎の頂に 2～7 コの掌状の穂状花序を 2 列に密につける。耐旱性や耐塩性などの環境適応性が高く、パーミューダグラスという名で広く普及している。	草丈 50～150cm の多年草。葉は 10～40cm の線形で淡緑色をしている。花期には茎の上部に 10～30cm の円錐花序を形成する。小穂は 2～5 コの小花からなり、緑色で 5～10mm の広楕円形。明治初期に牧草として日本に入り、広く利用されている。	草丈 0.5～2m の多年草。葉は線形で縁はざらつき、葉の付け根部分に毛がある。花期には長さ 15～50cm の円錐形の穂を出し、4～6mm の多数の小穂をつける。世界的に知られた畑の強害雑草で、日本でも東北以南の各地に広がっている。




名前	5	6	7	8
	ナガハグサ	ヒロハノウシノケグサ	ホソムギ	ライムギ
写真				
花期	5～7月	夏	5～7月	春～夏
生育場所	全国の空き地、牧草地、河川敷など	ヨーロッパ原産で、北日本に多い	芝生、斜面の緑化など	牧草として栽培、市街地や港湾付近で野生化
特徴	草丈 40～80cm の多年草。葉は線形で長さ 5～30cm、先端は船の舳先状。花期に長さ 10cm 程度の円錐形の穂を出し、3～5 コの小花からなる約 5mm の小穂を多数つける。ケンタッキーブルーグラスとも呼ばれ、世界中で栽培されている。	草丈 1m 程度の多年草。葉は線形、葉鞘は円筒形で口部に小さな葉耳がある。花期に長さ 30cm 程度の穂を出し、14 コ程の小花からなる長さ 2cm 程度の小穂をまばらにつける。牧草として栽培していたものが野生化した植物。	草丈約 90cm の多年草。葉は線形で光沢があり、花期には長さ 30cm 程度の分岐しない穂を出し、6～15 コの小花からなる扁平な小穂をつける。明治初期に牧草として導入され、その後全国的に野生化。ペレニアルライグラスとも呼ばれる。	草丈 1m 程度の一年草。葉は線形でややざらつき、葉鞘は無毛。花期に長さ 15cm 程度の細い穂を出し、2 小花からなる約 1cm の小穂を、密につける。ヨーロッパで穀物として改良され、牧草等として各国で栽培されている。




名前	9	10	11	12
	オオアワガエリ	フサアカシア	ヨーロッパハンノキ	アリゾナイトスギ
写真				
花期	6～8月	2～4月	(ハンノキ)12～翌4月	2・3月
生育場所	牧草地、道端、空き地、土手など	公園樹、街路樹、防風・防潮・砂防林など	(ハンノキ)原野や湿地、水田周囲など	鉢植、生垣、公園など
特徴	草丈約120cmの多年草。葉は線形でややざらつく。花期には長さ15cm程度の円柱形の穂を出し、長さ3mm程度の扁平な小穂を密につける。明治初期に牧草として導入され、その後全国的に野生化。チモシーとも呼ばれる。	樹高約15mの常緑高木。葉は2回羽状複葉で長さ8～16cm、小葉は線形で0.5cm、短軟毛があり裏面は銀白色。雌雄同株で頂生または腋生に花序枝を出し、濃黄色で芳香のある頭状花序を30以上つける。ミモザとも呼ばれる。	(ハンノキ)樹高10～20mの落葉高木。葉は長楕円形で不揃いの鋸歯縁。雄花序は尾状で下垂し、雌花序は球果になる。湿った場所を好むので、公園では池のほとりに植えられていることが多い。	樹高10～25m、幹径50cmほどの常緑針葉高木。葉は密に十字対生し、灰緑色～灰青緑色の鱗片葉で、幼木では針状葉。果実は長さ1.5～3.3cmの球形～卵形の球果で、鱗片が6～8個ある。

名前	13	14	15	16
	セイヨウトネリコ	ヨーロッパブナ	クロヤマナラシ	ホソイトスギ
写真				
花期	(トネリコ)4～5月	(ブナ)5月	(ヤマナラシ)4月	春
生育場所	(トネリコ)民家の周囲、公園樹、街路樹など	公園樹、庭園樹など	公園、学校などの植栽木	公園、庭園、街路樹など
特徴	樹高約35mの落葉高木。比較的若い木はなめらかな灰色の樹皮をしていて、冬になると黒っぽい芽を出す。小葉が葉軸の左右に鳥の羽のように並ぶ羽状葉をもつ。直立して成長する傾向が強く、剪定や垣根仕立てには適していない。	樹高24～30m、幹径約2mの落葉高木。樹皮は灰色で平滑。葉は互生し有柄で、葉身は卵形か楕円形で先端がとがり、縁に粗い鋸歯がある。建築材、家具材やパルプなどに用いられる。	樹高約30m、幹径約1mの落葉高木。縦に深い裂け目の入った灰色の樹皮をもつ。葉は互生し長柄があり、広三角形か菱形で先がとがっていて細かい鈍鋸歯がある。雌雄異株で日本には雄株が多く、雌株は稀と言われている。	樹高20～30m、幹径60～70cmの常緑針葉高木。葉は暗緑色の鱗片状の卵形で十字対生する。春に開花し、雌球花と雄球花がわかれてつく。球果は2.5～3.5cmの卵球形で灰緑色、翌年の秋に暗褐色に熟す。建築材としても利用される。

名前	17	18	19	20
	セイヨウハシバミ	スギ	モミジバズカケノキ	エンピツビャクシン
写真				
花期	(ハシバミ)3～4月	3～4月	4・5月	1～4月
生育場所	ヨーロッパ、アメリカなど	庭園樹、生垣、盆栽、街路樹など	公園、庭園、街路樹など	公園や植物園などの限られた場所
特徴	樹高5m程度の落葉低木。葉は互生し有柄で卵形、葉の先は尖り、縁には鋸歯がある。1.5～2cmで卵球形の堅果ができる。果実の核はヘーゼルナッツと呼ばれ、食用として広く流通している。	樹高30～40mの常緑針葉高木。樹皮は赤褐色で縦に裂け、細長く剥離する。葉は緑色の鎌状針形で無毛、長さは0.2～2cm。雄球花は淡黄色の楕円形で長さ0.5～0.6cm、球果は緑色だが熟すと褐色になり、鱗片が裂開して種子が出る。	樹高35mの落葉高木。樹皮は大きくはがれ落ちる。葉は有柄で互生し、広卵形で浅く3～5裂し、全縁あるいはわずかに歯牙がある。花期に雄花序と雌花序を別々の花序柄につける。径2.5cm程度で先に棘のついた球状果を2コつける。	樹高5～30mの常緑高木。幹は単幹で枝は斜上に伸び、樹皮は灰褐色または赤褐色。成木の葉はほとんどが鱗片葉で長さは0.2～0.4cm程度。果実は長さ約0.3～0.7cmの球果で、色は白粉を帯びた青もしくは紺色。

名前	21	22	23	24
	アカミグワ	オリーブ	セイヨウイボタノキ	シラカンバ
写真				
花期	(クワ)4～5月	6～8月	5～6月	5月
生育場所	米国南部地方	東海、瀬戸内、九州地方で食用やオリーブ油採取のために栽培	生垣など	向陽の山地、伐採跡地、山火事跡地など
特徴	アカミグワの果実はブラックベリーに似ていて、熟すと赤または黒になり、生食の他、ペーストやワインに加工される。(クロミグワ)温暖な気候を好む落葉高木。葉は互生し、円心形で鈍端、基部は深い心臓形で鈍鋸歯縁をもつ。	樹高約15mの常緑高木。葉は約5cmの披針状で対生し、表面は濃緑色、裏面は淡緑白色で細い毛が密に生える。花は柄のある小花が長い円錐形または円柱形に並び、付け根から咲いていく総状花序の形態をしている。	樹高約1～2mの常緑低木。刈り込みに強く、初夏に咲く白い花や繊細な葉が魅力で、生垣によく利用される。	樹高約20m、幹径約40cmの落葉高木。葉は互生し有柄で5～7cmの三角状広卵形、先がとがっていて辺縁に鋸歯がある。樹皮が薄く、紙状にはがすことができる。雄花序は無柄でひも状に長く伸びて下垂し、黄色の花粉を吐く。

名前	25	26	27	28
	ペルシャグルミ	セイヨウヤマアイ	ナガバギシギシ	シロザ
写真				
花期	5月	夏～秋	6～8月	6～10月
生育場所	食用もしくは用材として栽培 主産地は長野県	畑地、樹園地、牧草地、荒地	道端、荒地など	荒地地、畑地、道端など
特徴	樹高約30mの落葉高木。 葉は奇数羽状複葉で、 長楕円状卵形～長楕円状卵形で 先が尖った、全縁の小葉が7 ～9枚つく。雌雄異花で、 雄花序は尾状、雌花は数花が 固まってつく。果実は上の 尖った球形でしわがあり、 殻が厚く裂開性。	草丈20～50cmの一年草。 2～5cmの長楕円状披針形～ 卵状楕円形で鋸歯のある葉が 対生する。 毛が生えた3～4mmの実には 2コの種子が含まれる。	草丈約1.5mの多年草。 葉は長楕円形で深緑色、縁は 縮んで著しく波打つ。 花期には茎の先に30cm程度の 花穂を出し、緑色の花を密に 多数つける。 切れ込みや鋸歯のない全縁の 翼が果実についていて、中央脈 の基部は緑白色のこぶになる。	草丈40～150cmの一年草。 葉は互生し披針形または菱形で、 縁に鋸歯があり、下面は粉で 覆われている。下部の葉には 長い柄がある。上部の葉には短い 柄がある。花は小さく淡緑色で、 葉のついた穂または円錐花序。

名前	29	30	31	32
	オウシュウヨモギ (別名ハタヨモギ)	セイヨウイラクサ	アオゲイトウ	ブタクサ
写真				
花期	5～9月	6～9月	7～10月	7～10月
生育場所	荒地地、道端、堤防、 土手など	地、畑、空き地、道端、 やぶなど	畑地、樹園地、草地、道端	全国の畑地、牧草地、空き地、 道端など。関東以西に多い
特徴	草丈80～150cmの多年草。 葉は互生し卵形で、羽状に 切れ込みがあり、幅の広い小葉 に分かれる。上面は深緑色だが 下面は毛に覆われ銀白色。 花は3～4mmの頭状花で 幅の狭い円錐花序。 マグワートとも呼ばれる。	草丈50～150cmの多年草。 葉は対生で披針形または ハート形、縁は粗い鋸歯状を している。茎と葉に棘毛がある。 4～5弁の雄花と雌花が別々の 株につく。雄花は長く下垂した 尾状花序につき、雌花は小さな 房をなす。	草丈40～150cmの一年草。 淡緑色もしくは紅色で分岐の ある茎をもつ。葉は5～10cm の菱状卵形で互生し、2～7cm の葉柄をもつ。花穂は白緑色か 黄緑色、円柱状で幅8～15mm。 1株当たり50万個の種子を生産 すると言われている。	草丈30～150cmの一年草。 葉は羽状に深裂し、下部で対生、 上部で互生する。 花は花軸の先に小さな花が 集まる頭状花序で、茎の頂に 長い花穂を出して雄頭花を、 基部の苞葉(蕾を包む葉)の 中に雌頭花をつける。

名前	33	34	35
		ヘラオオバコ	ノハラヒジキ (別名ハリヒジキ)
写真			
花期	5～8月	7～10月	春～夏
生育場所	道端、荒地、市街地の空き地など	砂質の海浜、浮き縄の上、内陸の荒地など	石垣の隙間などに好んで生える
特徴	草丈約50cmの一年草。葉は30cm程度で毛があり広線形～倒ひ針形、切れ込みのない全縁で、波打つことが多い。花期には花茎を多数出し、その先に4裂した花冠のある小型の花を密につけた、長さ8cm程度の円柱形の穂をつける。	草丈5～40cmの一年草。茎は多肉質で基部からよく分岐する。葉は1～3cmで柄がなく下部で対生する以外は互生し、棒状で多肉質、葉の先は棘になる。夏に茎上部の葉腋に緑色の小さな花を数個つける。	草丈30～40cmの一年草。葉身の長さは15～45mmで幅は5～20mm、卵形で全縁、先は急に細くなる。分枝した枝先の葉は小型化する。花期には花軸の先に小さな花が集まる頭状花序が葉腋に固まってつき、雄花、雌花、両性花をつける。

アレルギーの原因となる草と樹木 時期一覧

※検査結果をもとに、表内の点線をなぞって色付けしてください。

名前	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 アメリカスズメノヒエ						---	---	---				
2 ギョウギシバ					---	---	---					
3 カモガヤ							---	---				
4 セイバンモロコシ							---	---	---			
5 ナガハグサ					---	---	---					
6 ヒロハノウシノケグサ						---	---	---				
7 ホソムギ					---	---	---					
8 ライムギ			---	---	---	---	---	---				
9 オオアワガエリ						---	---	---				
10 フサアカシア		---	---	---								
11 ヨーロッパハンノキ	---	---	---	---								---
12 アリゾナイトスギ		---	---									
13 セイヨウトネリコ				---	---							
14 ヨーロッパブナ					---							
15 クロヤマナラシ				---								
16 ホソイトスギ			---	---	---							
17 セイヨウハシバミ			---	---								
18 スギ			---	---								
19 モミジバスズカケノキ				---	---							
20 エンピツビャクシン	---	---	---	---								
21 アカミグワ				---	---							
22 オリーブ						---	---	---				
23 セイヨウイボタノキ					---	---						
24 シラカンバ					---							
25 ペルシャグルミ					---							
26 セイヨウヤマアイ						---	---	---	---	---	---	
27 ナガバギシギシ						---	---	---				
28 シロザ						---	---	---	---	---		
29 オウシュウヨモギ					---	---	---	---	---			
30 セイヨウイラクサ						---	---	---	---			
31 アオゲイトウ							---	---	---	---		
32 ブタクサ							---	---	---	---		
33 ヘラオオバコ					---	---	---	---				
34 ノハラヒジキ							---	---	---	---		
35 カベイラクサ			---	---	---	---	---	---				

アレルギーの原因となる節足動物

	コナダニ類		チリダニ類ヒョウヒダニ属	
	繁殖は夏季前後の高めの気温と湿度において著しく、卵から成虫まで10数日以内で回る。室内や食品に白い粉状に発生すると、不快感やダニノイローゼのきっかけになる。		体長0.3～0.4mmとごく微小で、フケや毛髪、昆虫の死骸や食物破片を餌として生息。気温や湿度の高い夏に増えるが、異常な高温には弱い。英名の総称でhouse dust mite(ハウスダストマイト)という。	
名前	36 コナダニ科 ケナガコナダニ アシプトコナダニ	37 ニクダニ科 サヤアシニクダニ ネッタイタマニクダニ	38 コナヒョウヒダニ	39 ヤケヒョウヒダニ
生育場所	食品や室内塵 また植物根など	室内塵や穀物、味噌、 砂糖など	ソファ、カーペット、 ぬいぐるみなど	ソファ、カーペット、 ぬいぐるみなど
特徴	ケナガコナダニ)体は乳白色、 胴の後ろについている6対の 毛が体長と同じほど長い。 室内塵での出現率は90% 以上、タタミやビニール ハウスなどでもみられる。	サヤアシニクダニ)胴は卵形、 非常に長い胴部毛をもつ。 穀物や干物などにみられる。	雌の胴長は約0.4mm、 第3脚より4脚が長い。 雄の胴長は約0.3mmで、 第3脚より4脚が短い。 略記はDf。	雌の胴長は0.3mm強、 第3脚より4脚が長い。 雄の胴長は約0.25mm。 日本における室内塵ダニの 再優占種で組成率は約30～ 40%、欧米は60～70%と さらに高い。 世界的に最も重要な抗原と 認識される。略記はDp。

	40	41	42	43
名前	ワモンゴキブリ	チャバネゴキブリ	ネコノミ	ヒアリ
生育場所	地下街、下水道、 廃棄物処分場など	冷暖房完備のビル内、 飲食店厨房内など	ペットの体毛や寝床	港湾地域のコンテナヤード の地面、コンテナ内や荷物
特徴	体長30～45mm、屋内性 のゴキブリの中では最も 大きい。体全体は赤褐色で、 前胸背板に黄色の輪のような 紋がある。不潔な環境と食品 の間を往来し、食品を汚染 する。また、体液や糞が アレルギーとなることが 知られている。	成虫の体長は10～15mmと 小型で体色は淡黄褐色、 前胸背板に明瞭な2本の 黒線をもつ。日本において 最も身近に生息している ゴキブリで、食品製造現場で 大発生することから異物混入 の原因になることが多い。 夜行性。	成虫は1mm～1cmで無翅。 体色は黄褐色～黒褐色で、 頭部や胸部に櫛のような 剛毛をもち、頭部の前縁が 細長くとがる。卵は光沢の ある白色楕円体で、粘着性 がなく床に散乱する。 ペットの体毛や寝床を清潔 に保つことが予防になる。	働きアリの体長は2.5～6cm。 体は全体的に光沢があり 頭部と胸部は赤褐色で、 腹部は黒褐色。 巣はドーム状に土が盛られた アリ塚で、開放的な草地や 裸地に作られることが多い。 2020年時点で国内での定着 は確認されていない。

	44	45	46
名前	キオビクロスズメバチ	セイヨウミツバチ	ホオナガスズメバチ属
生育場所	本州中部以北の山地に生息。 土中や樹洞に巣を作る	野生では木の空洞、 飼育下では巣箱	山地に生息する種と平地に 生息する種がいる
特徴	働きバチは体長10～16mm 女王バチは18～20mm。 小型のスズメバチである クロスズメバチ属に分類 される。胸部と腹部は地色が 黒色で、頭盾にイカリ型の 黒斑があり、後胸背板に 黄斑をもつ。	女王バチの体長は24.5～ 25.5mm、働きバチは20.5～ 21.5mm。色は黒や黄色と さまざまで、橙色や黒の縞 があるものもある。 商業用作物の受粉に最も 広範に利用されているハチ。 南極大陸以外のほとんど すべての陸地に広く生息して いる。	小型から中型のスズメバチ で、頬が長く複眼下端が 大顎に達しないことで他属 と区別される。 世界に約20種が知られ、 日本には4種が生息。 4種とも北海道と本州に 生息していて、 シロオビホオナガスズメバチ のみ四国にも生息している。

交差反応アレルゲン類 一覧

	アレルゲン	交差性を示すもの
草	ギョウギシバ	セントオーガステイングラス
	スズメノチャヒキ属の植物	オオムギ・ライムギ
	セイバンモロコシ	コーン・穀草・サトウキビ
雑草	オナモミ	メロン・スイカ・ラテックス・セロリ・ヒマワリ・バナナ
	タンポポ	ヒマワリ・レタス
	セイヨウオオバコ	オオバコ・メロン
	セイタカアワダチソウ	バッカリス・ヒマワリ
	ニワトコ	セロリ・ヒマワリ・メロン・スイカ・バナナ・ラテックス
	ブタクサ	メロン・スイカ・セロリ・バナナ・ズッキーニ・トマト キュウリ・ラテックス・レタス・タンポポ・ヒマワリ セイタカアワダチソウ・リンゴ・糖蜜・カモミール茶葉
	ヨモギ	ニンジン・セロリ・パセリ・カバノキ・ピーナッツ・コショウ リンゴ・キウイ・メロン・スイカ・ウイキョウ・ヒマワリの種
樹木	カバノキ (シラカバ)	リンゴ・セロリ・ニンジン・ジャガイモ・ピーナッツ トマト・アーモンド・クリノキ・ブナ・ハウレンソウ トネリコ・キウイ・アンズ・ヘーゼルナッツ・蜂蜜 パセリ・コショウ・プラム・サクランボ・ソバ・プルーン
	ビャクシン	スギ
	ハシバミ	クリノキ・ブナ・リンゴ・アーモンド
	スギ	トマト
	オーク	クリノキ・ブナ
	オリーブ	ライラック・サフラン
	トウヒ (エゾマツ含む)	モミノキ・マツ
	スズカケノキ・オオカエデ	プラタナス属
ハンノキ	アーモンド・リンゴ・セロリ・サクランボ ヘーゼルナッツ・パセリ・洋梨・桃	
食物	牛肉	牛乳・牛上皮・羊肉・豚肉・馬肉・兎肉・鶏肉
	鶏肉	七面鳥・ウズラ・鶏卵・ウズラの卵
	ミルク	チーズ・乳漿・山羊乳
	コーン	サトウキビ・セイバンモロコシ
	七面鳥	鶏肉
	穀草 (ソルガム)	コーン・サトウキビ・セイバンモロコシ
	オートミール	ソバ
	ポテト	ピーマン・ナス・フトモモ科の木 (実)
	マグロ	サケ・オヒョウ
	タラ	タラ科・ウナギ・サバ
	ニンジン	セロリ・パセリ・キュウリ・スイカ・リンゴ・キウイ・ウイキョウ
エンドウマメ	ピーナッツ・大豆・インゲンマメ	
室内	ゴキブリ	甲殻類 (エビ・カニ)

アレルギーの原因となるカビ・真菌

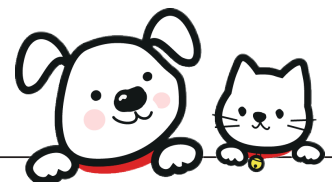
名前	47	48	49	50
	アルタナリア	アスペルギルス	クラドスポリウム	ペニシリウム
写真				
生育条件	6 ~ 32°C	12 ~ 57°C	35°C以下	5 ~ 約 36°C
至適温度	25 ~ 26°C	37 ~ 43°C	18 ~ 28°C	23°C
生育場所	多くの植物、土壌、腐った木、堆肥、食品など	土壌に広く分布するほか、がらくたの山、松林、タマネギ、米、腐った植物、鳥の排泄物、堆肥など	空気中、土壌中、湿った窓枠、換気の悪い家屋、藁ぶき屋根の家など	湿帯の森林、牧草地、頻りに耕作が繰り返される土壌
特徴	窓枠に密に見出される。戸外のカビと考えられており、温暖になると現れる。	熱に強い真菌で、世界的に広く分布。増殖に適した温帯域は広いが、一年の中で最も寒い数ヶ月間に発症することが多い。もっとも重要なカビアレルギーのひとつ。	空気中で最も高頻度に出会うカビ。胞子は容易に空気中を運ばれ、時として海を越えていく。胞子は大気中に5月頃より現れ、7~10月のいずれかにピークを迎える。重要なカビアレルギーのひとつ。	ペニシリン産生能を持つ土壌カビ。四季を通じてさほど大きな量的変化はないが、強いて言えば冬と春に多いと考えられている。抗生物質のペニシリンと交差反応が確認されているので、陽性個体へのβラクタム系抗菌剤の使用には注意が必要。

※検査結果をもとに表内の○を色付けして、チェックした箇所を重点的に掃除してください。

監修 カビ相談センター 所長 高島 浩介先生	住居周り						住居環境内								住居環境外					生体			
	塗料	排水溝	地下室	窓枠	浴室	台所	エアコン フィルター	たたみ	絨毯	衣類	綿	ハウスタレスト	冷蔵庫	穀類	食品	空気中	土壌	枯れた植物	植物	堆肥	草	鳥の糞	表皮
47	アルタナリア	○	○	○	○				○		○	○		○	○	○	○	○	○	○			
48	アスペルギルス						○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○		○	
49	クラドスポリウム	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○			○
50	ペニシリウム			○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○			○

参考文献

著者	書籍名	出版社	発行年
高橋秀男	野草大図鑑	株式会社 北隆館	1990年
高橋秀男	樹木大図鑑	株式会社 北隆館	1991年
クリストファー・グレイ=ウィルソン	野草の写真図鑑	株式会社日本ヴォーグ社	1996年
植村修二、勝山輝男、清水矩宏、水田光雄	日本帰化植物写真図鑑	全国農村教育協会	2010年
森田弘彦、廣田伸七、池原直樹	街路樹・公園樹・庭木図鑑	株式会社 創英社	2012年
ノエル・キングズバリ	150の樹木百科図鑑	株式会社 原書房	2016年
邑田仁、米倉浩司	APG樹木図鑑	株式会社 北隆館	2018年
	庭木図鑑	株式会社 ブティック社	2022年
ノア・ウィルソン=リッチ	世界のミツバチ・ハナバチ百科図鑑	河出書房新社	2015年
寺山守、須田博久	日本産有剣ハチ類図鑑	東海大学出版部	2016年
高田伸弘、高橋守、藤田博己、夏秋優	医ダニ学図鑑—見える分類と疫学—	株式会社 北隆館	2019年
津田良夫、安居院宣昭、谷川力、夏秋優、林利彦、平林公男、山内健生	衛生動物の事典	朝倉書店	2020年



スペクトラムラボジャパンの
PAX をご利用いただき
ありがとうございました。